

こまつしりつにしきがまてんじかんしゅおく かまなや いしぐら
小松市立 錦窯展示館主屋・窯納屋・石蔵

種 別	国登録有形文化財 建造物
登録年月日	令和元年9月10日
所 在 地	大文字町

大文字町中程にある陶工・徳田八十吉の旧居兼陶房である。初代から三代まで当地に居住し、上絵付けに勤しんだ。現在、錦窯展示館に改修され九谷焼作品を展示している。

主屋は前庭を介して通りに西面して建つ木造二階建て、切妻造り棧瓦葺きで、一階南面を土間とし、北側にミセ（床の間付きの六畳）や座敷等四室を並べ、二階は七室を配し、上絵付けの作業場とする。採光を確保した広い二階の作業室や、窯納屋と最小限の動線で結ぶなど、陶房としての機能性を優先した造りといえ、九谷焼窯元の暮らしを伝える近代和風住宅である。

窯納屋は、主屋の南側に建つ切妻造り棧瓦葺きの木造二階建てで、西面を通りに面し外壁は一階を下見張りの腰石張り、二階を漆喰塗りとする。内部は石敷土間で、大小二基の錦窯を備え、錦窯の上を吹き抜けとし、西は一階を薪置場、二階を倉庫とする。九谷焼窯納屋の希少な遺例である。

石蔵は、敷地東南隅に西面して建つ完成品の旧収蔵庫。切妻造り棧瓦葺き妻入りの平屋建てで、正面に鉄扉を備える。外観を観音下石とし、石材表面に縦溝や面取りを施す。内部は一室だが、小規模ながらも重厚な造りである。

(1) 錦窯（にしきがま）：陶磁器の上絵付けに用いる窯。

火が直接作品に触れないよう、二重構造となっている。



主屋



窯納屋



石蔵